

〔資料〕

米国看護学部の地域看護センターを視察して

田中千代¹⁾ グレック美鈴²⁾ 宮本千津子³⁾ 梅津美香⁴⁾
齋藤和子⁴⁾

Community Nursing Centers at Schools of Nursing in the U. S.

Chiyo Tanaka¹⁾, Misuzu F. Gregg²⁾, Chizuko Miyamoto³⁾, Mika Umezu⁴⁾,
and Kazuko Saito⁴⁾

はじめに

国際交流委員会では、海外諸大学との学術提携および交流について考える上で、本学の理念を基に、大学として地域に貢献する研究・実践が行われていることを探索の方針としている。昨年度はその第一段階として、大学看護学部が組織的に地域貢献を行っているという報告が文献等でみられた4大学、すなわち The University of Wisconsin-Milwaukee, Johns Hopkins University, The University of Rochester, The University of Washington について、海外での教員による教育研究活動のあり方について示唆を得ること、また海外での教育研究活動の交流先探索の参考とすることを目的に、文献やネットワーク検索による情報収集を行った。このうち3大学では、看護学部教員が地域看護センター (Community Nursing Center, 以下 CNC と略す) という形で地域への看護活動を行い、地域の健康増進に大きな役割を担っていることがわかった。しかしながら、文献を中心とした情報収集の限界により、目的に対する必要十分な情報は得られず、情報収集の方法としては活動の状況を実地で見ることやパーソナルコミュニケーションが必要とわかった¹⁾。

これらをふまえ、昨年度末に、国際交流事業推進のための情報収集業務として、米国における看護学部および CNC の視察をおこなった。視察期間は平成13年2月28日から3月10日であった。視察先の大学は、上述の4大

学のうち CNC および看護学部の見学を打診し了解の得られた2施設、および CNC の研究者がいる The University of Colorado Health Sciences Center の計3カ所とした。視察日程は表1の通りである。

以下に、視察を行った各大学 (看護学部) について、CNC の活動を中心に紹介したい。

I. The University of Rochester, School of Nursing の地域看護センター

1. 大学の概要

The University of Rochester はニューヨーク州北部にある私立の総合大学である。看護学部は1925年に医・歯学部と共に開設され、学部生と大学院生 (修士・博士課程) 併せて年間366人の学生を有している。看護学部では、専門学校や短期大学レベルの教育を受けた RN のための学部編入コース (RN to BS) や、学部編入後学士から修士課程まで連続したコース (RN to BS to MS) などもある。尚、現在、学部への入学生の減少が著しく学部教育が困難なことから、学部長によれば、将来は学部生への教育は編入コースのみとする予定である。

2. 地域看護センターの位置づけと特徴

看護学部は、医・歯学部や附属病院などと共に Rochester 大学メディカルセンター (URMC) を形成し、この URMC を通してヘルスケアに関連したさまざまな活

1) 岐阜県立看護大学 育成期看護学講座 Nursing of Children and Child Rearing Families, Gifu College of Nursing
2) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学講座 Community-based Fundamental Nursing, Gifu College of Nursing
3) 岐阜県立看護大学 機能看護学講座 Management in Nursing, Gifu College of Nursing
4) 岐阜県立看護大学 成熟期看護学講座 Nursing of Adults, Gifu College of Nursing

表1 視察場所・日程

日程	場所・内容		日程	場所・内容	
2001年 2月28日	The University of Rochester,	見学打ち合わせ	3月3日	州立 Binghamton University の教員より大学の概要等について説明を受ける	
3月1日	School of Nursing	St. Joseph's Neighborhood center	3月5日	The University of Wisconsin- Milwaukee, School of Nursing	House of Peace Community Nursing Center
		Monroe County Health Department			Silver Spring Community Nursing Center
		East High School			学部長とのミーティング
		Nutrition/Weight Management Center	3月6日		日本の看護実践と看護学教育についての プレゼンテーション
		University of Rochester, School of Nursing			Riverwest Pierce Community Nursing Center
		Hammer Lithograph Co.	3月7日		Shalom Community Nursing Center
3月2日		Strong Memorial Hospital			Undergraduate Research Day
	Center of Continuing Education for Nursing and Allied Health	3月9日		The University of Colorado HSC	CNC についての情報収集
	East High School(ミーティング)				
	Passport Health				
	Hillside's Children's Center				

動を行っている。看護学部の教員の活動分野は教育、研究、実践の3つに大別されるが、CNCはこのうちの実践の場であり、CNCにおける実践活動は教員の勤務時間として保障されている。The University of RochesterにおけるCNCの位置づけは、図1のとおりである。

CNCは「壁のないセンター」として、地域での看護ケア、パスポートヘルス、学校でのケア、ケアマネジメント、栄養/体重管理、組織と共同した健康管理、継続教育という幅広い領域での活動を行っている。こうしたCNCの活動には、看護職だけでなく医師、薬剤師、栄養士などの多職種が関わっている。

The University of RochesterのCNCは、多くの場合、CNCのサービスに契約した施設や個人を対象としており、これらの実践活動により年間約20万ドルもの利潤が

もたらされている。経営責任者によれば、CNCは看護学部の中で一つのビジネスとして大きく成長しているとのことであった。

尚、教員が、教育、研究、実践という3領域の活動についてどこにどのように活動の重点を置くかということは、その教員によって異なっており、教員の勤務時間もこの3領域間での活動の比重に応じて配分されているとのことであった。

次に、CNCの活動内容について、今回見学した施設を中心に、領域ごとに紹介する。

1) 地域でのケア

St. Joseph隣人センターでは、6人のナースプラクティショナーと3人の医師により、地域住民を対象としたプライマリーケアが行われている。ケアを受ける人

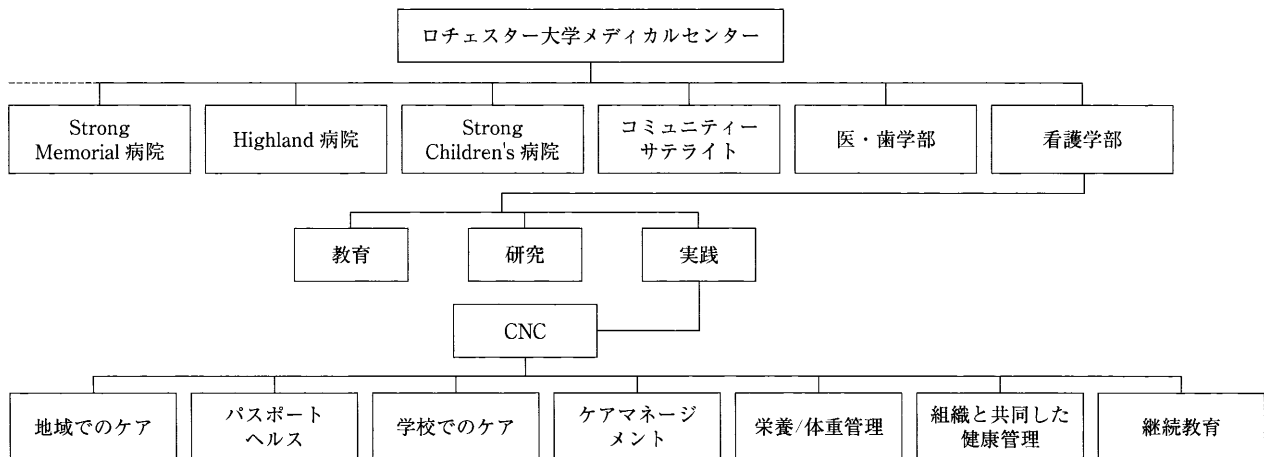


図1 地域看護センター (CNC) の位置づけ (The University of Rochester)

は、1回5ドルを支払うだけでよく、ナースプラクティショナーと医師の大部分がボランティアであることや、医薬品は製薬会社からの寄付でまかなわれていることにより、このような廉価な料金で利用できるということであった。実際、薬品倉庫を見せてもらったが、寄付による薬品や備品で満杯であった。

Monroe 郡保健部門では、虐待や薬物乱用などさまざまな理由で親が親権を剥奪された子どもを対象に、看護婦、医師、ナースプラクティショナーがケアを提供している。ここには、1ヶ月200～300人の子どもが訪れるとのことであった。

Hillside 子どもセンターは病棟や居住設備を備えた施設であり、行為障害、自閉症、発達障害、自殺企図、PTSDなどの子どもへのケアや住環境の提供、養育のケアの提供の他、虐待を受けた子どもや家族の緊急シェルターとしても機能している。このセンターは学校も併設しており、看護婦や小児科医、栄養士、特殊教育教師、心理学者などがスタッフとしてケアを提供している。ここでヘルスケアリーダーとして働いている看護婦に、看護学部教員がCNCで活動することのメリットについて尋ねたところ、教員の調査研究のためのデータ収集が行える点と、教員が実践を行っている場を学生の実習場として使用できる点であるとのことだった。尚、この看護婦は、現在この大学の大学院に社会人入学しており、大学の組織の一つであるCNCで働くことにより学費が無料であるとのことだった。この看護婦だけでなく、大学病院やCNCなど大学の組織で働きながら学部編入したり大学院で勉強している人も多いが、学費免除の制度はこうした動きを促していると思われた。

2) パスポートヘルス

パスポートヘルスでは、旅行に関するヘルスケアサービスが行われている。スタッフは内科医と看護婦であり、医師は感染症や熱帯医療の訓練を受けている。サービスの内容は、予防接種、旅行先での病気や事故を予防するためのアドバイス、薬剤や救急セットなどの物品の提供である。見学した看護学部内の他に、Canandaiguaにオフィスがあり、また州北部に数ヶ所のサテライトオフィスをもっている。

3) 学校でのケア

CNCでは、学校を基盤としたヘルスケアのために、

看護婦、ナースプラクティショナー、心理学者、医師などのスタッフを大学から派遣している。見学した公立高校(East High School)においても、在校生を対象に、予防接種、健康相談、健康教育、カウンセリングなどを行っていた。これらのサービスは、看護婦やナースプラクティショナー、小児科医や精神科医によって提供されている。ここは州の助成金により経営されていることから、サービスは無料である。ここに勤務しているナースプラクティショナーによれば、生徒の両親との間の秘密保持の問題は非常に難しいことであるが、生命に関わるような問題でない限り、生徒に関するいかなる情報も生徒の許可なく両親には提供しないとのことであった。

4) 栄養/体重管理

栄養/体重管理センターのスタッフは、ナースプラクティショナーや栄養士、ソーシャルワーカーであり、主に肥満に関連したケアを提供している。成人に対しては、食事や運動など、行動変容のためのプログラムと、抗肥満薬の投与を含んだプログラムが、小児や思春期の子どもに対しては、子どもの発達や家族のダイナミクス、ライフスタイルについてのケアが提供されている。見学時には、病院の食堂で栄養士と医師による思春期の子どもの肥満予防についての昼食時にセミナーが開かれており、入院中の患者や一般の食堂利用者も参加していた。

5) 組織と共同した健康管理

Hammer Lithographyの工場では、月2回、1回2時間、看護婦が訪問して従業員に健康相談やカウンセリングを行っている。会社からは、1時間75ドルが支払われており、これは会社が独自で看護婦を雇用するより廉価であるとのことだった。ここで提供されるサービスは、雇用者のニーズアセスメント、健康教育、マッサージ療法、悲嘆のためのカウンセリング、退職後の人生設計など多彩である。

6) 継続教育

継続教育の一環として、RN First Assistant (RNFA) プログラムについての説明を受けた。RNFAとは、従来の手術室看護婦よりも患者に直接的に関わり自立して機能でき(例えば縫合や止血を行うことができる)、術後にも患者にケアや教育を提供するという役割をもつ。RNFAプログラムを受けるためには、ニューヨーク州のRNの免許、手術室看護婦の認定またはナースプラク

ティショナーのプログラムの単位取得, 2年以上の手術室看護婦またはナースプラクティショナーの経験, 認定外科医の理事会からのプリセプターになることへの同意書, 手術室婦長か手術室看護婦からの推薦状, 心肺蘇生法の認定などが必要である。このRNFAについては, 雇用にあたって医師より安価であるという経済的理由以外に, 看護の視点がどれほど重視されているかは疑問であり, このことについて研修担当のナースプラクティショナーからも明確な返答は得られなかった。

II. The University of Wisconsin-Milwaukee, School of Nursingの地域看護センター

1. 大学の概要

The University of Wisconsinは現在, University of Wisconsin Systemと呼ばれる13の大学と13の短期大学を統括した州立のシステムとして存在しているが, その設立は, 州の人々のために直接利益が還元できることを目的とするというウィスコンシン理念に支えられている²⁾。1956年にミシガン湖の近くに設立されたThe University of Wisconsin-Milwaukeeは, 11学部あり, 学生数は約22,000名である。この中で看護学部は, 1965年に学士課程を, 1970年に修士課程(クリニカルナーススペシャリストとファミリー・ナースプラクティショナーのコース)を, 1984年に博士課程(Ph. D)を設立したアメリカの中では比較的新しい学部で, 2002年からはオンラインのみの博士課程も開始される。2000年秋現在の学生数は, 学士課程804名(編入学やキャンパス提携を含む), 修士課程90名, 博士課程35名である。

訪問時, 設立35周年記念行事として, 学部生研究日が実施されていた。これは学部生の時から研究に馴染んで

もらうことを目的として, 教員の研究発表, 学部生や大学院生によるパネルディスカッションを行うものであった。教員の研究発表の1つは, 地域看護センターでのクライアントの健康問題を明らかにしたものであった。

訪問中に学部生, 大学院生, 教員を対象に日本の看護実践と教育に関するプレゼンテーションを依頼された。参加者からは, インフォームドコンセントや平均在院日数, 大学の学生選抜方法など数多くの質問を受けた。

2. 地域看護センターの位置づけと特徴

看護学部内の地域看護センター(CNC)の位置づけは, 図2に示すとおりである。学務担当副学部長の下に1996年にFaye McBeath財団の助成金を受けて設立されたUrban Health Partnership研究所があり, この研究所がHouse of Peace CNC, Silver Spring CNC, Riverwest Pierce CNCおよびShalom CNCという4ヶ所のCNCの運営・調整を行っている。

The University of Wisconsin-MilwaukeeのCNCの特徴は, 以下の4つに集約できる。第1に, 地域に現存する施設の中に存在し, その施設を運営している人たちとの間でパートナーシップを形成し, 看護学部が運営している。使命を共有できる組織とパートナーシップを組むことで, 施設への支払いが不要になるメリットもある。第2に, 地域看護センターの実践に教育および研究が統合されている。センターでの実践は, 研究参加者の募集を容易にし, さらにゲートキーパーとの軋轢がないので看護研究が実施し易い。第3に公的, 私的な多くの研究助成金を受けて運営されている。そして最後に, The University of RochesterのCNCと異なり, 完全に看護職による運営である。以下に, 見学した各センターについて記述する。

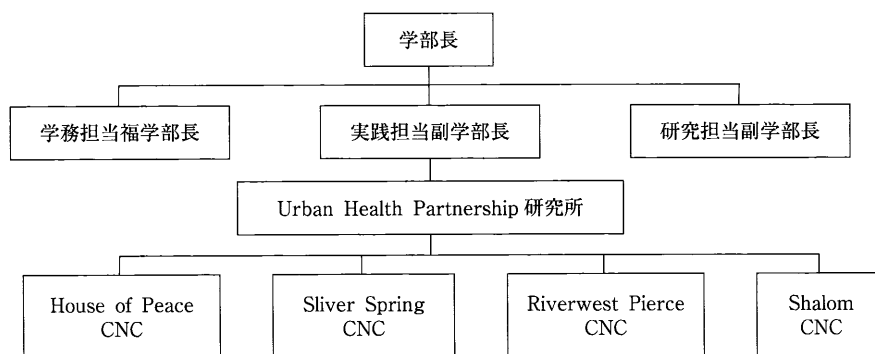


図2 地域看護センター(CNC)の位置づけ
(The University of Wisconsin-Milwaukee)

1) House of Peace CNC

看護学部から3 kmほどの距離にある House of Peace CNC は、1968年にカプチン会修道士のチームにより設立された House of Peace Community Center とのパートナーシップにより、1990年に設立された。健康保険を持たない低所得層が多く、ヘルスケアセンターや開業医もほとんどいない地域である。House of Peace Community Center で提供されているプログラムは、CNC の看護プログラムの他に、薬物・アルコール乱用カウンセリング、6歳から13歳を対象とした学習機会と社会性を得るための夏季強化プログラムとコンピュータ能力向上プログラム、リーダーシッププログラム、困窮している人への食料・衣服の配布である。

CNC の看護プログラムでは、健康診査、コレステロール・血糖・血圧・聴覚・視覚のモニタリング、健康教育、疾病予防プログラムが予約不要のクリニックとして、家庭訪問によって、あるいは地区内の他の組織と協力して提供されている。これらのサービスは、週5日利用でき、費用は全て無料である。地域の特性から、女性や子どもに焦点を当てたサービスが多い。例えば美容室や教会で乳癌・子宮癌の早期発見プログラムが行われている。またラオス人やフモン族の移民が多い地域であり、英語が話せない人も多いため、これらの資料は翻訳され、バイリンガルの看護婦によってプログラムが実施されている。スタッフは、大学と研究助成金から給与が支払われているディレクター、ナースプラクティショナー、看護婦であり、2000年の利用件数は6,026件である。ここでは、衣服を取りに来た人が子どもの咳がひどいという話しをすると、CNC に連絡が入り、子どもの診察をするというように、社会サービスと看護がうまく結びついていた。

地域アセスメントは、CNC の開始時にフォーカスグループによって行われている。地区内にコンドミニアムが建設予定であり、低所得者に混じって高所得者が住むことになり、再度の地域アセスメントを行う予定だと話されていた。見学时、オマハ州にあるクレイグトン大学のコミュニティサービスを学習している7人の学生が1週間の泊り込み実習を行っていた。学生の実習は、学生にとっては学習の機会であり、センターに来る人にとってはサービスを受ける機会となっている。学生のこの実

習は全くのボランティアであるが、就職の際の履歴書に記載できるというメリットもあるらしい。

2) Silver Spring CNC

Silver Spring CNC は、ウィスコンシンで最も大きな政府補助住宅の中にある私的な非営利団体によって運営されている Silver Spring Neighborhood Center とのパートナーシップによって、1987年に設立された。センターの周辺は、見渡す限り茶色い木造2階建ての建物が並んでいる。これが政府補助住宅のアパートで、726室を有し、約2,000人の低所得者が住んでいる。多少古い統計ではあるが、90%が黒人、80%以上が母親のみの家庭、50%以上が17歳以下であり、10%以上が3歳以下という人口統計上の特徴を有している³⁾。センターで出会った利用者は、圧倒的に黒人と若年層が多く、人口統計上の特徴に大きな変化はないと思われた。

Silver Spring Neighborhood Center には15以上の組織、60人以上のスタッフが関わっており、提供されているプログラムは、コンピュータの基礎技術や高校卒業資格を得るための成人教育、子どもを対象としたアルコール・煙草・薬物使用の予防や避妊のためのプログラム、子どものケア、食料・衣服の配布などである。ここで CNC として提供されているケアは、成人を対象とした血圧・血糖チェック、雇用のための健康診断、女性の検診、子どもを対象とした発達スクリーニング、健診、予防接種、および親を対象としたカウンセリングなどである。

スタッフは、ディレクター、プログラムマネージャー、ナースプラクティショナー、保健婦、看護婦、非常勤の医師（1日/週）である。他の CNC も同様であるが、博士課程の学生がスタッフとして働いている。CNC のサービスは、看護学部の教員のみではなく、学部生や大学院生の様々な臨床コースの一部としても提供されており、2000年の利用件数は、3,299件である。

この CNC は現学部長である Sally Peck Lundeen が1985年に開発した Lundeen CNC モデルを検証するためのセンターとして選ばれ、保健社会福祉省看護課、私的財団、州や郡の特定のプログラムに対する契約などから研究助成金を受けている。年に4回の報告書の提出を義務付けているところもあるため、ディレクターは多くの時間を書類の作成にかけなければならないと話してい

た。

3) Riverwest Pierce CNC

Riverwest Pierce CNC は、Pierce 小学校とのパートナーシップにより1996年に設立された。小学校への出入りは厳しく管理されており、入り口で名前と訪問先を記入し、名札をもらってから CNC を訪れた。教室と同じ大きさのセンターで、非常勤のファミリー・ナースプラクティショナーと看護師が働いていた。ケアの対象は、小学校の生徒とその家族、および健康保険を持たない地域居住者で、プライマリーケアと予防接種が主な活動であり、2000年の利用件数は、3,123件である。

CNC の説明をしてくれたファミリー・ナースプラクティショナーによると、子どもの教育に全く関心のない親がほとんどで、そういう場合は子どもの健康についても無関心になる。3世代に渡って職がない家庭で育っている子どももいて、仕事に行く親を見ることなく成長する。社会生活と健康への関心の関連を考えさせられた。

4) Shalom CNC

Shalom CNC は、非営利団体によって運営されているホームレスシェルターである Shalom Center とのパートナーシップにより、1991年に設立された。看護学部のキャンパスからは、高速道路を使っても1時間近くかかる距離にある。キャンパス提携をしている The University of Wisconsin-Parkside に近く、ここからの学生が実習をしていた。

提供されているサービスは、成人と子どもの健康診査、健康教育、カウンセリング、血圧・血糖・聴覚・視覚のスクリーニングである。利用者の特徴は、20歳から39歳までの年齢層が最も多く(41%)、男性より女性が多く(53%)、半数以上が白人、35%が黒人である。2000年の利用件数は、329件である。利用件数の少なさは、現在、研究助成金が途切れているため、学生の実習がある週3日しか開けることができないためである。

ディレクターである看護学部助教授は、1週間に半日センターに来るだけで、学生の実習指導は Teaching Academic Staff と呼ばれるナースプラクティショナーによって実施されている。このナースプラクティショナーは看護学部の教員であるが、実習指導が主な仕事で、教室での授業の担当は1セメスターに1~2回程度である。

あと2ヶ月で卒業するという学生4人が実習をしていた。この日は、「自尊感情」に焦点を当てて5人のゲスト(ホームレスシェルターの利用者はゲストと呼ばれる)とミーティングを行っていた。学生がゲストに面接をした結果、自尊感情に問題があるということになりミーティングが計画されたそうである。ミーティング後の話し合いに参加した。ゲストの中には、幼児を連れて来ている人が2人いて、母親と子どもの身体的、精神的発達もアセスメントされていた。学生がここでの実習から学んだこととして、以下のことを述べた。「健康はその人の仕事、住まいと関連していて、健康を環境から切り離して考えることは出来ないし、指導した内容が実践されないのは、その人なりの理由が存在するということを学んだ。」「提供するの技術ではなく、自分自身であり、自分自身の価値観があらゆることに関連していることに気づいた。」「ホームレスの人たちと自分は、何ら変わらない人間なんだということがわかった。」この CNC では、実践(サービス)と教育の連携を見ることが出来た。

III. The University of Colorado Health Sciences Center での情報収集

上記2ヶ所の見学後、The University of Colorado Health Sciences Center で、地域アセスメントを専門にしている教授と CNC を博士論文のテーマにしている学生から、CNC の現状、問題点などについて話を聞く機会を得た。The University of Colorado Health Sciences Center の看護学部は、Jean Watson の看護理論に基づき、1988年に HIV 感染者や AIDS 罹患者を対象とした Denver Nursing Project と呼ばれる CNC を開始したが、約10年後、センターとしての役割を終えたという理由で閉鎖されている。

CNC は、独立したビジネス、大学、病院あるいはホームヘルス組織との連携という形が可能であり、学術的 CNC と非学術的 CNC に大別される。The University of Wisconsin-Milwaukee, School of Nursing に代表される学術的 CNC の特徴は、1ヶ所に CNC を設立することから、壁のないセンター (centers without walls) と呼ばれるサービスを請け負い、多くの場所で実践する形態へと移行している。またパートナーとしての地域

(community as partner) という考え方にに基づき、プライマリーヘルスケアに重点が置かれるようになってきている。

学究的 CNC の問題としては、第1に、研究助成金による運営から、サービスによる収入を得るシステムに変更できず、多くの CNC が閉鎖されている。The University of Wisconsin-Milwaukee 看護学部の CNC もサービスから償還されるシステムを検討中であるが、難しい問題が多数あり実現できていない。第2に、学生の教育の場として使われ、学生が休みの間は利用できないなど、地域のニーズを優先していない。これは第1の問題とも関連するが、Shalom CNC は正にこの典型である。第3に、教育、管理役割を果たさなければならない教員にとって、CNC での実践が重荷になっている。訪問中に会った人々は、CNC での実践を主な役割として看護学部に所属している人たちであったためか、これらの問題について聞くことはなかった。第4に、CNC での研究は、ナースプラクティショナーの治療役割に重点が置かれているところが多い。第5に、地域アセスメントが頻回に行われていない。House of Peace CNC での地域アセスメントが10年前の開始時のみであったように、地域アセスメントの回数は少ないと思われる。学究的 CNC が解決しなければならない問題は多いが、看護学部が地域に密着した活動で、地域の健康に貢献している良い例であると言える。

おわりに

今回、大学看護学部教員の実践による地域貢献の一つの形として、米国の CNC の機能と役割、そして CNC における活動が看護学部教員にもたらすメリットについて、情報を得ることができた。

米国での CNC というシステムを日本にそのまま適用することは、保険制度や看護婦の業務規定など、日米間での社会状況の違いにより難しいと思われる。今回訪れた CNC では、CNC のある地域住民の日常的な健康問題についてプライマリーケアを行うことを主な役割としていたが、この背景には、いかなる医療保険にも加入できず日常レベルの医療サービスを受けることができない低所得者層の住民が多い、という地域特性がある。そして、こうした住民に対して、CNC のナースプラクティシ

ナーが、診断や一時的な治療、処方などの医療を提供していた。一方、わが国では、国民皆保険制度により国民全般に対してある程度の水準の一次的医療は保証されていると考えられ、また、看護婦による治療や処方が行えないこともあり、今回の視察先とは異なる方法・水準の看護サービスが求められるのではないかと考える。

今回 CNC の活動を見学しスタッフから話を聞いた中で、CNC という場において教員による教育、研究、実践の3領域の活動が強く結びついていることを感じた。日本においても、教員自身が臨床現場に研修や調査という形で入りそこが実習場として利用されることは少なくないが、視察先の CNC では、看護学部教員がその場により強く密着して活動している印象を受けた。このように実践の現場と強く密着して活動できる理由として、教員の活動の優先度に応じて教育、研究、実践それぞれの勤務時間が配分されていることなど、学部のシステムとして教員による実践領域の活動が支援されている点が大いのではないかとと思われる。

最後に、今回情報収集用務として視察という形を用いたことにより、訪問中あるいはその後のパーソナルコミュニケーションを通して、文献では得られなかった詳細かつ具体的な情報、また最新の情報を得ることができた。このことから視察という方法の有益性を実感している。今後も、国内で得られる情報の検討を重ねた上で、可能な限り視察という方法を用いて、大学として地域に貢献する研究・実践を行っている海外諸大学との学術提携および交流に関する模索を委員会として続けたい。

引用文献

- 1) 梅津美香, 宮本千津子, 田中千代, グレグ美鈴: 米国大学看護学部における地域貢献のありようについて, 岐阜県立看護大学紀要, 1 (1) ; 154-160, 2000.
- 2) 村田鈴子: アメリカの州立大学と地域社会との関係—ウィスコンシン理念を中心として—, 村田鈴子編著, 公立大学に関する研究—地域社会志向とユニバーサリズム—, 初版; 271-290, 多賀出版, 1994.
- 3) Lundeen, S. P. : Comprehensive, collaborative, coordinated, community-based care : A community nursing center model, Family & Community Health, 16(2) ; 57-65, 1993.

(受稿日 平成14年2月12日)